

もの・クリCHALLENGE 2008 実施報告

もの・クリ CHALLENGE2008 WG 長 機械システム工学科 山口 晃生

1. はじめに

平成13年度に教務委員会の主催で始まり、その後平成16年度から授業改善・FD委員会主催で行われるようになった「もの・クリコンテスト」は、構想力や表現力を競うアイデア重視のコンテストであった。一方、平成17年度にはものづくり創造融合工学教育センター主催による学生コンテスト「サマーチャレンジ」が開催された。これは工学部1～3年生を対象として、学生の自主的なものづくり活動を支援する目的で開始されたコンテストであり、従来の「もの・クリコンテスト」よりも具体的なものづくり（作品製作）に主眼をおいていた。当初、両コンテストは実施時期に夏休み期間の作業を含み、その目的も学生の自主的活動に基づいた「ものづくり教育」の一環という点が共通していて両者の違いがわかりにくいものになっていた。そこで平成18年度からは、ものづくり教育の一層の充実を図る目的で、両委員会が合同で主催する「もの・クリ CHALLENGE」コンテストとして実施されるようになった。従来の両コンテストの特徴ある理念は募集区分としてアイデア部門と製作部門を設けることによりその後も継承されている。

平成20年度は「安らぐ」というテーマで作品募集が行われ、平成20年11月2日の工学部探検における審査会において作品が展示・発表され、優秀賞および入賞作品が投票により選ばれた。当日は学内外の審査委員はもちろん、一般の訪問者も審査に参加することができ、地域社会との連携と交流が図られた。

2. 本年度の実施概要

平成20年度の実施日程は以下の通りであった。

- 10月20日 応募締切（変更前 8月31日）
- 10月24日 応募テーマ発表（変更前 9月30日）
アイデア部門 Web 登録締切
- 10月31日 アイデア部門、製作部門作品提出締切
- 11月2日 10:00～12:00 第1次審査（工学部2号館1階ロビー）
12:10 第1次審査結果発表
13:15～15:15 最終審査（工学部2号館223教室）
15:30 最終審査結果発表と表彰

今年度は全部で24件の作品応募（製作14件、アイデア部門10件）があった。参加者には作品製作費として1件につき1万円まで補助を行った。作品およ

びアイデアの展示、内容の説明に基づく審査を行い、全作品のうち最優秀賞1点と部門毎に優秀賞を1点ずつ選んで表彰した。

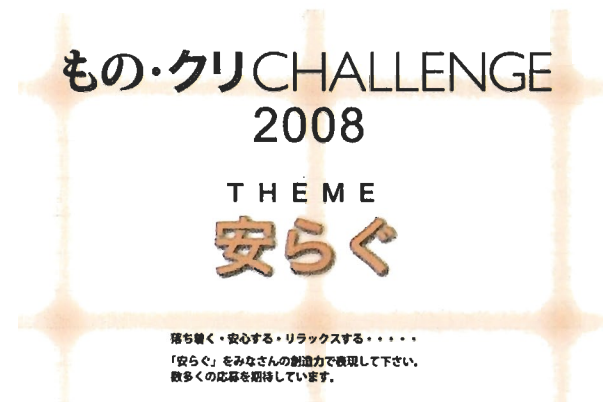


図1 作品募集ポスター（一部抜粋）

前期の定期試験前（7月中旬）に図1のポスターを掲示し募集を開始した。また、定期試験終了直後（8月1日）に説明会を実施して学生へコンテストの案内を行った。前期中に案内を実施したのは、夏休み期間中に作品の構想や製作を行ってもらうことを意図したためである。

応募者との連絡には電子メールを利用した。参加申し込みから実施要領の配布やアイデア部門のコンテンツ入力、作品概要のアップロードなどのため、技術部の協力により工学部広報サーバ上にコンテスト専用ページを開設した。コンテスト期間後はものづくりセンターのWebサイトで入賞および参加作品を見ることができる。

3. 審査方法および結果

第1次審査は工学部2号館1階ロビーで行い、製作部門は、製作した作品の展示を、アイデア部門は、アイデアの概要を表したポスターを掲示した。工学部探検の一般来場者にも製作およびアイデア部門毎に優秀な作品へ投票するよう依頼した。その結果、製作部門には約440票、アイデア部門には約200票の投票があり、製作部門6作品、アイデア部門4作品の計10作品を第1次審査通過作品とした。

第1次審査通過10作品については、公開形式の最終審査会において応募者が質疑応答を含め10分間のプレゼンテーションを行った。評価は外部審査委員1名、ものづくり委員会委員およびFD委員会委員、大

学院生の学生審査員が行い、各作品のプレゼンテーションを採点した。評価項目は、「作品製作目的・着眼点」、「アイデア・独創性」、「作品の完成度・製作技術」、「作品説明のわかりやすさ」、「テーマとの関連性」となっていて、全項目の平均点により順位をつけた。部門を問わずに全作品のうちで合計点が最も高いものを最優秀賞とし、これを除いて製作部門およびアイデア部門毎で最も得点の高いものをそれぞれ優秀賞として表彰した。また、第1次審査通過作品はすべて入賞とした。

受賞作品には賞状と副賞として図書カードまたは旅行券（最優秀賞12万円分、優秀賞6万円分、入賞5千円分）を後日授与した。

最優秀賞（製作部門）

作品名：「千泗万虹」
 知能生産システム工学科機械系4年 江頭 正和
 他8名

優秀賞 製作部門

作品名：RomArotic Candle
 物質生命化学科4年 黒木 瑞恵他4名

優秀賞 アイデア部門

作品名：オルゴール～癒しの旋律～
 電気システム工学科4年 平瀬 賢他3名
 （※入賞作品はものづくりセンターWeb サイト参照）

4. 問題点と検討課題

今回で「もの・クリ CHALLENGE」としての開催が3回目になり、ものづくり事業における主要な行事として定着してきた。実施手順もほぼ固まり、前年までに確立したやり方をかなり踏襲できるようになった。

毎年問題となっているが参加者増の方策、特に1～3年生の応募を増やすことは今年も課題として残った。応募の時期や呼びかけ方法を見直すことも必要であるが、意欲のある学生を掘り起こすためにはもっと思い切った方法を導入する必要があると思われる。

5. おわりに

今回は応募数こそ例年より少なめであったが、作品のレベルは総じて高く時間をかけてきちんと作り込まれているとの印象であった。アイデア部門作品はどれも独創的で斬新であり、製作部門はいずれの作品の完成度も高かった。一般の来場者にも非常に好評で興味深く見ていただけたのではないと思う。このコンテストを通して、自らのアイデアや構想・夢をこれまでに修得した知識や経験に基づいて具現化するという、通常の授業では得難い経験をすることができ、「ものづくり」の面白さと重要性が改めて認識できたものと期待している。

なお、入賞以上の10作品は、11月4日から1週間2号館1階ロビーにて展示し、学生・教員にコンテスト入賞作品の紹介を行った。



図2 工学部探検における1次審査会場



図3 最終審査会でのプレゼンテーション

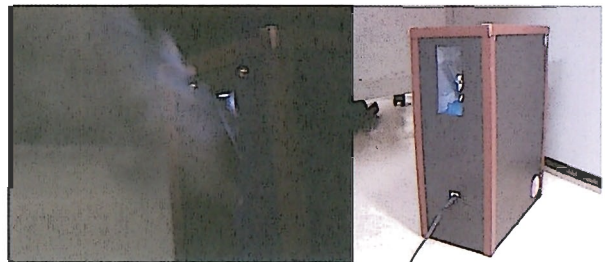


図4 最優秀賞 「千泗万虹」

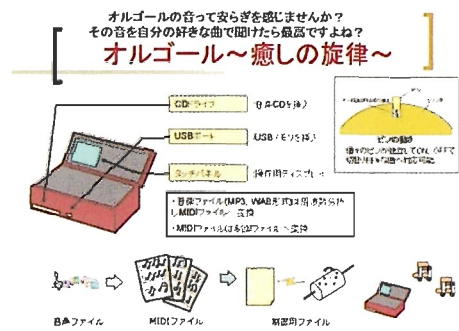


図5 優秀賞 アイデア部門 オルゴール～癒しの旋律～

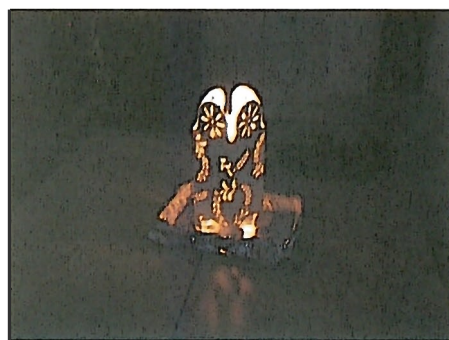


図6 優秀賞 製作部門 RomArotic Candle